

可茂農林事務所の普及活動状況（10月）

今月の重点活動

■ 茶 県 GAP 確認を目指し、説明会を開催

白川町の2つの茶生産組合が県 GAP 確認、JGAP 認証を目指し、GAP に取り組んでいます。

N 生産組合は 69 戸全員での県 GAP 確認を目指しており、県 GAP の適合基準をクリアするため、10月13日に組合員を対象に説明会を開催し、普及指導員から制度等の説明を行いました。また、JGAP 認証を目指す K 生産組合は、10月8日に GAP アドバイザー派遣制度を活用して、ASIAGAP 指導員から加工施設改修等の助言を得ました。GAP 取得に向け、両組合とも役員が組合員をサポートしながら熱心に取り組んでいます。

農業普及課は、これまでも加工施設及び農場管理の改善点を指導し、GAP チャレンジ推進支援事業を活用する支援も行ってきましたが、今後は、内部点検の実施を支援していきます。



【説明会の様子】

（園芸産地支援係・広瀬貴士）

新たなブランドづくり

■ 栗 「えな宝来」を使用した栗きんとんの試食を実施

農業普及課では新たなブランド創出支援事業で、新品種の普及に関して取り組んでいます。新品種の中で岐阜県育成の「えな宝来」が八百津町での早生品種として普及の可能性があり、加工適性についても検討を行っています。

八百津町産の栗の多くは町内の和菓子店が買い上げており、和菓子店に「えな宝来」への理解と加工適性を検討することを目的に、昨年度から加茂農林高校産の「えな宝来」を使用した栗きんとん試作を依頼しています。和菓子店からは「加工面では他の栗と比較し遜色なく、栗きんとんの原料栗として問題ない。」との評価を得ています。

また、八百津町農林課と協力して試食アンケートを実施し、集計中ですが、栗きんとんとして問題のない品質という意見が多く、八百津町での「えな宝来」導入に向けて一歩前進しました。



【「えな宝来」の栗きんとん】

（園芸産地支援係・宮田洋輔）

売れるブランドづくり

■ 新技術導入普及支援事業 ドローンによるレンゲ種子散布

農業普及課では、新技術導入普及支援事業「環境に配慮した無人航空機（ドローン）の活用によるスマート農業の実践」にて、ドローンによる空中散布の状況把握と経済効果の検証に取り組んでいます。

10月1日、ドローンによる水田へのレンゲ種子の散布について調査を行いました。散布作業を撮影するとともに、作業にかかる時間や作業時の騒音などについて記録しました。空中散布における散布ムラを調べるため、設置したコンテナ内に落ちたレンゲ種子数を調査するとともに、今後発芽状況を調査していきます。



【ドローンの準備中の様子】

今年度は、収集データの分析とともに、地域への波及を行うため、ドローン活用研修会を開催する予定です。
(地域支援第二係・加藤瑞穂)

■ 夏秋トマト 中山間農業研究所・高山市の先進農家の視察研修会を実施

美濃白川夏秋トマト産地では、今年は梅雨時期が長く極端な高温期が短かったものの、土壌病害である青枯病の発生が比較的多く、打開策の検討が必要となりました。

岐阜県で開発された夏秋トマト3S栽培システムは、土壌病害回避に有効であるため、10月3日に美濃白川夏秋トマト部会生産者とともに中山間農業研究所とシステム導入した先進農家の視察を実施しました。視察では、青枯病回避の観点で導入する場合の注意点、実際に導入した場合の出荷状況について学ぶ事ができました。

(園芸産地支援係・永田真一)



【3S栽培トマト】

多様な担い手づくり

■ 就農応援隊 新規就農者との交流会

10月9日、新規就農者・中濃就農応援隊交流会が開催され、新規就農者・研修生、応援隊員、関係機関等95名が参加しました。

今年度は可茂地区での開催となり、研修拠点である美濃白川就農応援会議の取り組みを室内研修および現地にて紹介する内容で、農業普及課では企画から関わり、当日も視察先等での生産者からの説明を支援しました。

研修生の受入れや新規就農者の経営などの農業の現場を応援隊の方々に知っていただく良い機会となり、新規就農者の交流を図ることができました。

今後も、関係機関と連携しながら、就農相談から経営確立まで一貫した新規就農者の支援を行っていきます。

(地域支援第二係・加藤昌亮、黒川純子、園芸産地支援係・永田真一)



【夏秋トマト新規就農者
ほ場視察】

住みよい農村づくり

■ 富加町 「古墳カレー」に使う野菜栽培開始

富加町には、この地域には珍しい前方後円墳や織田信長の天下統一の足掛かりとなった東美濃攻略にゆかりのある堂洞城「夕雲の城」など歴史的遺産が多くあります。

これらの地域資源を活用して、令和2年3月21日から22日の間、織田信長の東美濃攻略を題材とした歴史イベント「夕雲の城フェス」が開催され、昼食時に町内の農産物を食材とした「古墳カレー」が振る舞われることになりました。

富加町と農業普及課が協力して、このカレーに使う具材のうち、ほうれんそう、小松菜を町内で生産することになり、今後も収穫まで継続的に協力していきます。

収穫した野菜は、冷凍して3月のフェスタの「古墳カレー」に使用する予定です。

(地域支援第一係・斉藤政隆)



【畑を耕す役場職員】